

教育部  
資料室

38  
光村 小国 532

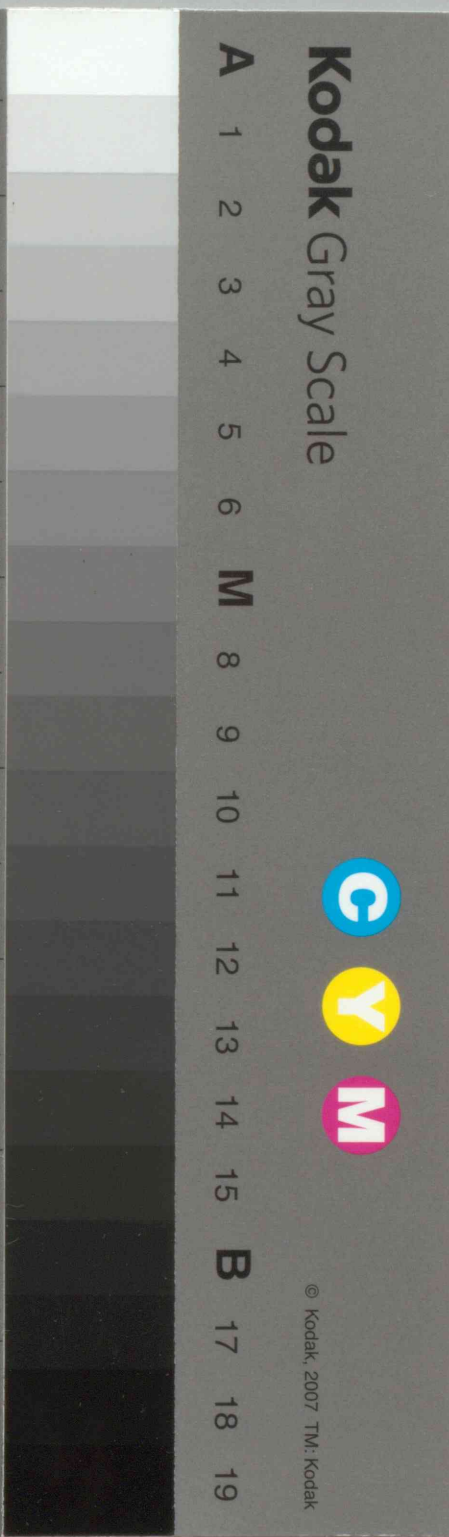
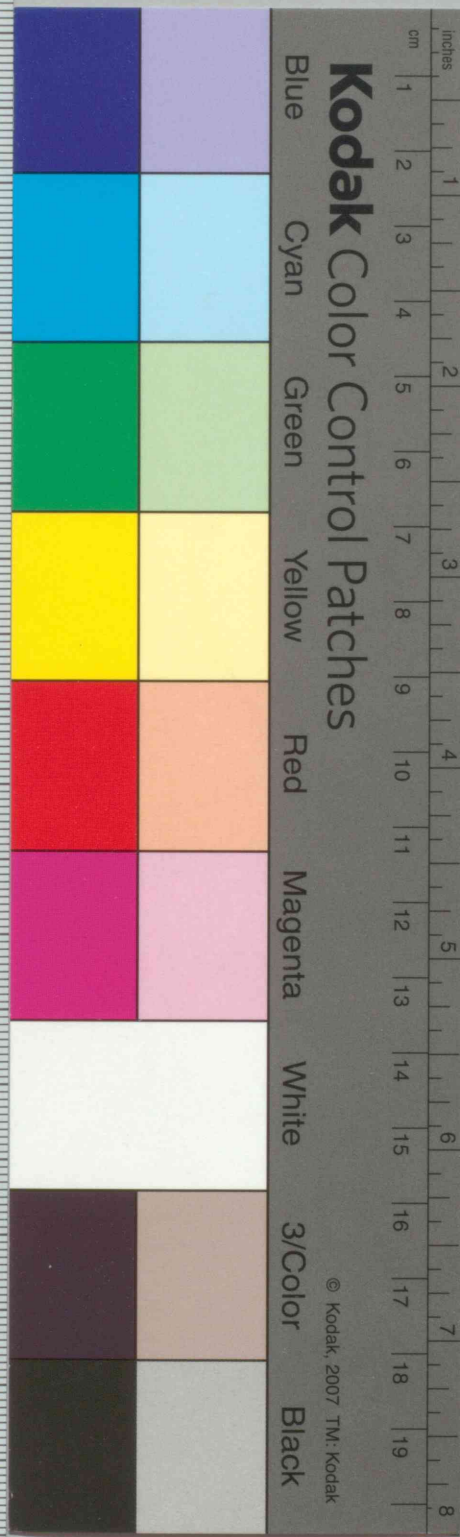
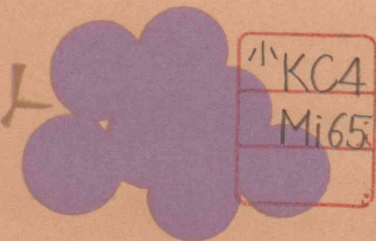
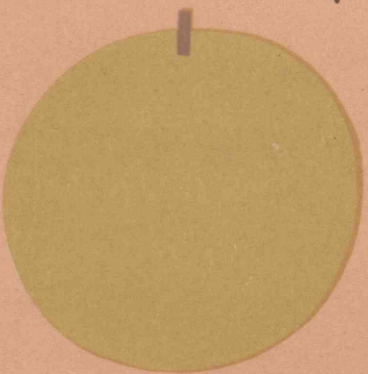
文部省検定済教科書

石森延男編  
金田心象書

教科書文庫  
6  
720  
34-1950  
0130449898

書  
方

五年下



60272  
教科書文庫  
6  
720  
34-1950  
01304  
49898





昭和二十五年八月十二日  
文部省検定済  
小学校国語科用

### 中央図書館

一	座右のめい	1
二	話しあったこと	2
三	短詩	4
四	案内状	8
五	注意すること	12
六	視写	14
七	カード作製(その一)	25
八	まとめ	27
九	カード作製(その二)	32

もくじ

### 贈 寄

一 座右のめい (座右のめいや すきな ことばなどを 白紙に ベンで 美しく 書く)

ドぶんたちの庭はほんとに小さい。  
 それこそ手のひらほどのものだけけれど、  
 それこそ一つの世界だ。  
 そこでさく花々、そこで鳴く虫々。  
 真の幸福なんてものは、  
 そう大きなものでもまた、  
 遠いところにあるものでもないようだ。

山村暮鳥

教科書文庫  
6  
720  
34-1950  
0130449898

広島大学  
教育学部図書

広島大学図書  
0130449898

広島大学図書  
0130449898



二 話しあった こと (学習で 話しあった ことなどを よく わかるよう たてけいに ペン字で 書く)

書かれた文字について話しあおう

友だちの書いた日記を見て話しあおう。

友だちの書いた記録について話しあおう。

原ことう用紙に書かれた作文の文字について。

ノートの書きかたについて。

黒板やけい示板に書かれた文字について。

学校新聞の書きかたについて。

かべ新聞の書きかたについて。

どれが読みやすく書いてあるか。

どれがきれいに書いてあるか。

どれがつまりあいよく書いてあるか。



キ、リ

山の湖水のほとり

「ます」小屋のランプが、

キ、リに暗くなりました。

短日

かれごくをたいている。

とやへ追われていく、

白レグホンたち。

— 田中冬ニ —



わたりの心はにどを見るとおどろ

わたりの心はにどを見るとおどろ

おさないころにそうであった。

おとなになつてゐる。いまもそうだ。

やがて老いても、そのように。

そうでなければ、死んでいた。

おさな子はおとなの父だ。

それで、わたしは望まらぬ。

わたりの日々が、

自然をうたう心で、

一日一日と、むすばれそいくように。

ーウオーズワースー



四 案内状 (その二)

(赤ペンを使って案内状などのなおしかたを練習する)

こんどわたしたちの組で、たん生会をいた  
します。  
七月二十日(金)二

この日は、わたしたちの図画や工作をは  
じめ、作文、~~研究~~など、いろいろなもの  
を展示します。  
かべ新聞もかかげます。

午後一時からは、わたしたちの教室で、次  
のようなプログラムで、たん生会を  
はじめます。

一 唱歌 (夏は来ぬ。雲。一ばん)

二 作文ろう読 (うちのねこ) 林 正男

三 この月にたん生した人に花をあげる。

四 お礼のことば

五 子どもしばい (幸福) 三ばん

六 お話 (金の魚) 大村たか子

七 唱歌 (級歌) 全部

このほかにとびりがあるか、しり  
れません。

どうぞ、おとうさまやおかあさま、  
おいで

ください。お待ちしています。

五年 二組一同より



(その二) (できあがった案内状を 鉄筆で 小さく書く) これは原紙に書いたところ

こんど七月二十日(金)にわたしたちの組で、たん生会をいた  
します。この日は、わたしたちの図画や工作をはじめ、作文  
研究物など、いろいろなものを展示します。かべ新聞もかか  
ります。  
午後一時からは、わたしたちの教室で、次のようなプログ  
ラムでたん生会をします。  
一 唱歌 (夏は来ぬ。雲) 林 正男  
二 作文 (うちのねこ) 林 正男  
三 この月にたん生した人に花をあげる  
四 お礼の言葉 (幸福) 三 げん  
五 子どもしばい (幸福) 大村 たか子  
六 お話 (金の魚) 大村 たか子  
七 唱歌 (級歌) 全 部  
おとうさまやおかあさま、どうぞおいでください。お待ち  
しています。

これは すりあがった ところ

こんど七月二十日(金)にわたしたちの組で、たん生会をいた  
します。この日は、わたしたちの図画や工作をはじめ、作文  
研究物など、いろいろなものを展示します。かべ新聞もかか  
ります。  
午後一時からは、わたしたちの教室で、次のようなプログ  
ラムでたん生会をします。

- 一 唱歌 (夏は来ぬ。雲) 林 正男
  - 二 作文 (うちのねこ)
  - 三 この月にたん生した人に花をあげる
  - 四 お礼の言葉 (幸福) 三 げん
  - 五 子どもしばい (幸福) 大村 たか子
  - 六 お話 (金の魚) 大村 たか子
  - 七 唱歌 (級歌) 全 部
- おとうさまやおかあさま、どうぞおいでください。お待ち  
しています。

五年二組一同より



読書するときの注意

- 一 うす暗いところでは読まないようにする。
- 二 太陽の直しゃ光線をさけること。
- 三 本を読む前に手をあらうようにする。
- 四 指先をなめてページをめくらなないこと。

五 ねころんで本を読まないこと。

六 ーせいを正しくして読むようにする。

七 本と目とのまよりは、三〇センチぐらいは

なすのがいい。

八 声を出さないうで読むこと。



ヘレンケラーの書いた「わが生がい」

の中で、心のうたれたところを原こう

用紙にうつりてみた。

ある日、私が新しい人形をもって遊んでい

ますと、サリバン先生が、ほかの大きな人形

を私のひざの上において、「人形」という字

をつづりながら、二つとも同じ名であること

を私にわからせようとなさいました。

その日はすでに、私は「ゆのみ」と「水

とでたいへん善しんだあとでした。サリバン



先生は、「ゆのみ」が道具で、「水」がその  
中にはいつてゐるものであることを、はっ  
り教えるために善くされたのですが、私はい  
つまでたつても区別ができませんでした。

それからまた、先生がぼうしを持ってきて  
くださったので、私はあたたかい日なたにて  
かけるのだと知つて、おどりあがりました。  
ふたりは、いど小屋をおおつてゐるすいかず  
らのあまいにおいにひかれて、庭の小道をお



りていきました。だれかが水をくみあげてい

ましたので、先生は私の手をといての口の

下へやりました。冷たい水がいきおいよく流れて

いるあいだに、別の手に、はじめてのはゆっく

りと、次には早く、「水」という字を書いて

くださいました。私は、身動きもせず、立っ

たままで、全身の注意を先生の指の動きにそ

そいでいました。

ところがとつぜん、私は、なにかしらわす

れていたものを思い出すような、めばえてこ



とがわかっ  
たのです。  
私の手にふれる  
あらゆ  
こ  
うして私は、  
物にはみな名  
まえのあるこ  
つ  
たのです。  
めさせ、  
光と希望と喜びと  
を与えることにな  
この生きただ一  
ことが、  
私のたましいを  
目ざ

知りま  
した。  
めて  
「水」は  
いま自分のかた  
手の上を流  
るふりぎな  
ものを感じま  
した。このとき  
はど  
うとする心  
のはたらきと  
いったよ  
うな、あ  
るふりぎな  
ものを感じ  
ました。この  
ときはど  
めて  
「水」は  
いま自分の  
かた手の上  
を流  
るふりぎな  
ものを感じ  
ました。この  
ときはど  
うとする心  
のはたらき  
とといった  
ような、あ



るものが、生命をもって動いているように感

じはどめまりました。

それは、先生が与えてくださった新しい目

で、すべてをみるようになったからです。

(毎日新聞選定)

ヘレン・ケラー先生を

むかえるうた

幸福の青い鳥

青い小鳥が、とんできた。

遠い国から、はるばると、



七 カード作製(その二) (鉄筆で 国語テストカードなどを 作る 練習)

国語テスト

氏名

この「わが生が  
いを、何分何  
秒で読めま  
すか。

まとめてい  
うと、どんなこと  
が書いてあり  
ますか。

なぜ「青い小  
鳥」といったの  
でしょう。

日本の国へ  
この里に、

海をわたって  
とんできた。

ヘレン・ケラーの  
おばさまは、

いつも、  
小鳥と

いっしょ  
です。



八 まとめ(学習して まとめた ことを えんびつて 早く わかり やすく 書く)

話かたについて研究したこと

一話かたの学習の目あて

- (1) 人の話を注意して聞くようになること。
  - (2) はっきりとおちついてものをいうようになること。
  - (3) 見たこと、聞いたことを順序だてて話すようになること。
  - (4) ことばづかいや、いまわしかたをぶくすること。
- 二話かたを学習するときに気をつけること。

- (1) よいことばとは、どんなことばであるか、それを考える。
- (2) よいことばとわるいことばをくらべてみる。
- (3) よいことばの力とか美しさとかを考えてみる。
- (4) よいことばを使うには、どうしたらいいのか、それについて考えてみる。



(5) 話すことがらをうまくまとめ、聞き手にはおもしろく、  
わかりやすく伝えるように考える。

(6) 相手とばあいに応じて、それによくあった話—ぶりの  
できるようにしていく。

(7) ほかの人の話の要点をすぐつかむことのできるよ  
うに—っていく。

三話—かたで、とくに注意すること。

(1) 人に—ころよい感—と与えるような声をだす。

(2) 話すときの身ぶりや表情にも注意する。

(3) はつきりと—た発音と語調で話をすすめていく。

(4) できるだけ—いことば—を—て、俗語や方言を使わない。

(5) 相手の話をお—ま—までよく聞くこと。



四 どんなときに話しかたの学習をするか

(1) 学校の休み時間

休み時間に、みんなと遊びながら話しあいをする。

食事をしながらの話し話をする。

食後には、すぐに話しあいをする。

(2) 教室で学習をしながら

いろいろな問題についてみんなで思ったことや  
考えたことを話しあう。

ほかの人の話をよく聞く。

(3) 子どもは、

台本を読んで、それについて話しあう。

動作や表情について話しあう。



九 カード作製(その二) (鉄筆でカードをきれいに作る。)

国語の教科書しらべ			理由	氏名
文の種類	課題	題目		
いちばんおもしろかった文				
強く心をうたれた文				
むずかしいと思つた文				

本書学習指導の目あてと要領

- 一 研究したことや、調査したことを、えんぴつで、早くはつきりと書く。
  - 二 話しあったことや、注意することなどを、ペンでたてけいに正しく書きとめる。
  - 三 ペンで原稿用紙にきれいに早く視写する。
  - 四 ペンで座右のめいや、詩などを美しく、たのしみながら書く。
  - 五 文のなおし方をおぼえる。
  - 六 案内状を鉄筆できれいに書く。
  - 七 いろいろなカードを鉄筆で正しく作る。
  - 八 えんぴつ、ペン、鉄筆の性質がだんだんわかる。
- (なお各ページの指導については、「書き方指導書」に詳説してある。)

そうてい 河野 鷹 思

書 き 方 五 年 下

APPROVED BY MINISTRY  
OF EDUCATION  
(DATE SEP. 14, 1950)

昭和二十五年九月十四日 印刷  
昭和二十五年九月十八日 発行

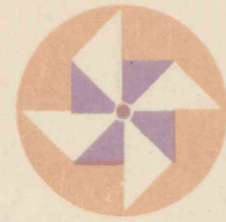
著 者 石 金 田 森 心 延 象 男 円  
定 価

東 京 都 品 川 区 東 大 崎 一 丁 目 五 三 三 番 地  
発 行 者 光 村 図 書 出 版 株 式 会 社  
代 表 者 大 江 恒 吉

東 京 都 品 川 区 東 大 崎 一 丁 目 五 三 三 番 地  
印 刷 者 株 式 会 社 光 村 原 色 版 印 刷 所  
代 表 者 光 村 利 之

東 京 都 品 川 区 東 大 崎 一 丁 目 五 三 三 番 地  
発 行 所 光 村 図 書 出 版 株 式 会 社





5

下

なまえ

広島大学図書

0130449898



出版株式会社